

6. 学習面での対応

(1) 授業の流れを示し、現在の位置を示す

現在、学習がどの程度進んだのか、位置を示します。[課題把握] → [内容把握] → [比較検討] → [まとめ] → [振り返り] といった流れのわかる用紙を黒板隅に貼り、現在の位置を示す色丸磁石を置きます。授業が進む度に、磁石を移動してどの段階にあるかわかるように示します。学習の進み具合がわかるので、安心して学習に取り組みます。

(2) タブレットで板書を撮影する

LD傾向で、書字が苦手な子の場合、タブレットを使用します。ノートに文字を書く代わりに、タブレットで撮影することにします。自分の考えを書く場合、タブレットで書かせることも考えられますが、無理をせず、その子ができる範囲のことをさせます。

(3) カラー化する

色分けをして視覚に訴えることで、理解を深めることができます。そこで、三角定規の各辺に別の色をつけるなどカラー化して理解を助けます。

(4) ノート、教科書は、カラーバンドで教科ごとまとめる

一つの教科で、様々な冊子を使います。まとめることが苦手なので、教科ごとにカラーバンドでまとめます。例えば、国語は赤のカラーバンドとし、教科書、ノート、漢字ドリル、漢字ノートをひとまとめにしておきます。道具箱の中からは、教科のカラーバンドを出すだけで済むようにします。

(5) ノート、教科書類は、置きっ放しとする

家に持ち帰らせると、二度と持ってこられない子の場合、ノートや教科書類は、学校に置いておくことにします。国語の教科書など、宿題で使う最低限のものだけを持ち帰らせることにします。